

弘前市 校務 DX 計画

1 統合型校務支援システムの導入

令和7年度に環境構築を行い、令和8年度からクラウド型の統合型校務支援システムを導入します。

2 学校と保護者間の連絡手段

令和7年度に保護者連絡アプリを導入し、すべての市立小・中学校において、教員と保護者間の連絡(保護者から出欠連絡、学校からの配布文書等)をデジタル化することを検討していきます。

3 クラウドサービスの活用

現在、クラウドサービスを利用する環境は構築されていますが、児童生徒や保護者へのアンケートや児童生徒への各種連絡について、クラウドサービスを活用してペーパーレス化できている学校は一部にとどまっており、学校間において活用の格差が散見されます。

活用が進んでいない学校の現状と課題を把握するとともに、引き続き活用事例に関する情報を学校へ提供し、校務 DX が推進されるよう支援していきます。

4 ゼロトラスト環境の構築

児童生徒の個人情報等を扱う「校務系ネットワーク」と、児童生徒及び教職員が Wi-Fi で利用する「教育系ネットワーク」の2つで構成されていますが、教職員の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系ネットワークと教育系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

5 FAX・押印の見直し

一部ではまだ外部とのやりとりで FAX や押印等を必要とする書類がありますが、引き続き FAX や押印等について、制度・慣行の見直しを行うとともに、FAX での送付や押印を求めている関係団体・事業者等を把握し、クラウドサービスの活用や書類の電子化を推進します。

6 校務支援システムへの名簿情報の不必要的手入力作業の一掃に向けての検討

令和8年度の校務支援システム導入に向け、名簿情報の不必要的手入力作業は、既存システムからのデータにより連携ができるよう、検討を進める。